

アザミウマ類の防除対策について

アザミウマ類は体長が約 1mm の微小害虫で、茨城県においては主にミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマの発生が多く見られます。これらアザミウマ類は多くの作物に被害をあたえる他、各種ウイルス病も媒介しますので以下のことを参考にし、防除を行ってください。

1. 発生推移

アザミウマ類は夏季から秋季にかけて活動が活発になります。当所の巡回調査においても気温が低くなる冬季は発生が少なくなりますが、気温が高くなる春季以降は発生が多くなります（図 1）。これからアザミウマ類の活動が活発となる季節となりますので、十分注意が必要です。

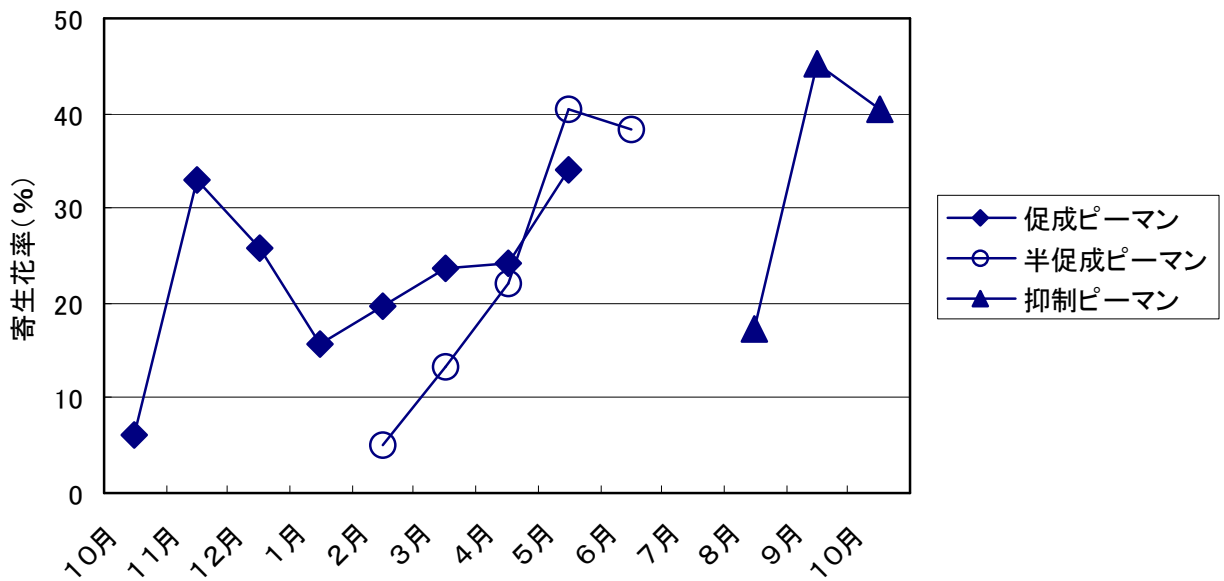


図 1 施設栽培ピーマンにおけるアザミウマ類の寄生花率の推移 (過去 10 年間の平均)

2. 被害の特徴

アザミウマ類は、食害等により葉や花及び果実へ被害をもたらします。アザミウマ類の種類別の主な寄生部位と被害の特徴について表 1 に示します。またアザミウマ類は、表 2 のように各種ウイルス病を媒介するので注意が必要です。

表 1 アザミウマ類の種類別の主な寄生部位と被害の特徴

| 種類 | 主な寄生部位 | 主な被害の特徴 |
|-------------|----------------|--|
| ミカンキイロアザミウマ | 葉, 花 | 葉: カスリ状の白色斑点症状 花: 加害部の変色 果実: 果梗部や果面の変色, 白ぶくれ症状 |
| ミナミキイロアザミウマ | 生長点の新葉, 展開葉, 花 | 葉: 新葉の奇形, 葉脈に沿ったカスリ状の小斑点症状 花: 加害部の変色 果実: 縦線状に褐色のかさぶた状の症状 |
| ヒラズハナアザミウマ | 花 | 花: 加害部の変色 果実: 果梗部の変色, 白ぶくれ症状 |
| ネギアザミウマ | 葉, 花 | 葉: カスリ状の白色斑点症状 花: 加害部の変色 |

表2 アザミウマ類が媒介する主なウイルス

| 種類 | 媒介ウイルス名 | 感染する作物 |
|-------------|-------------------------------|----------------------------------|
| ミカンキイロアザミウマ | トマト黄化えそウイルス (TSWV) | トマト, ピーマン, ナス, キク等 |
| | キク茎えそウイルス (CSNV) | キク, トマト |
| | インパチェンスネクロティックスポットウイルス (INSV) | シクラメン, インパチェンス, トルコギキョウ, マーガレット等 |
| ミナミキイロアザミウマ | トマト黄化えそウイルス (TSWV) | トマト, ピーマン, ナス, キク等 |
| | メロン黄化えそウイルス (MYSV) | キュウリ, メロン, スイカ |
| ヒラズハナアザミウマ | トマト黄化えそウイルス (TSWV) | トマト, ピーマン, ナス, キク等 |
| | インパチェンスネクロティックスポットウイルス (INSV) | シクラメン, インパチェンス, トルコギキョウ, マーガレット等 |
| ネギアザミウマ | トマト黄化えそウイルス (TSWV) | トマト, ピーマン, ナス, キク等 |
| | アイリスイエロースポットウイルス (IYSV) | ニラ, ネギ, タマネギ, ラッキョウ, トルコギキョウ等 |

3. 防除対策のポイント

アザミウマ類は増殖が速いので、薬剤の防除効果を十分に発揮させるためには、物理的防除等も取り入れて、防除にあたってください。

【施設、露地栽培共通】

- ① 圃場内外に生息するアザミウマ類の密度抑制
 - ・圃場内外の除草を徹底してください。(アザミウマ類は多くの雑草に寄生します)
 - ・残渣置き場等で自生している野良生え作物があれば、早急に抜き取り処分してください。(アザミウマ類の発生源やウイルスの伝染源になります)
- ② 圃場内のアザミウマ類の増加防止
 - ・定植時に可能な場合は粒剤を施用するとともに、圃場内の発生状況をよく観察し、発生初期の薬剤防除を徹底してください。(青色粘着板を利用すれば、発生状況を把握しやすくなります)
 - ・薬剤抵抗性の発達を防止するため、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行ってください。
- ③ 圃場内への侵入抑制
 - ・圃場の周りに光反射マルチを設置してください。

【施設栽培】

- ① 施設内への侵入防止
 - ・施設の開口部に 1mm 目合い以下の防虫ネットを設置してください。
 - ・紫外線カットフィルムで被覆してください。(ミツバチや作物の種類によっては影響があります)
- ② 施設外への飛び出し防止 (栽培終了時)
 - ・株元を切断し 2 週間程度ハウスを密閉して、施設内のアザミウマ類を死滅させる蒸し込み処理を行ってください。

※アザミウマ類は雑草も含め多くの植物に寄生するため、防除は産地全体で取り組むことが重要です。産地全体で防除意識を高め、アザミウマ類の生息密度を減らすように努めましょう。